

## 令和5年度第2回市民と議会のつどい（議会報告会）実施報告書

開催日時	令和5年11月19日（日） 午後2時30分～午後4時30分	
開催場所	東部交流会館 多目的ホール	
担当議員	班代表者	長岡議員
	司会者	長岡議員
	報告者	堤議員
	記録者	谷口議員、小見山議員
	班員 (上記以外)	西山議員、福井議員
参加人数	12人	
主な質疑・意見等	<p>Q行：令和4年度下水道事業会計の一般会計からの基準外繰入金は2億715万円とあるが、令和3年度はいくらなのか。  A：令和3年度は2億9千20万円であった。</p> <p>Q行：議会だよりには、下水道未接続の家屋が1800戸とあるが、数字は正確か。以前調べたときは1700戸だった。100件も増えたのか。  A：確認する。</p> <p><b>【後日確認した結果】</b>  未接続の世帯数  R5.3 (R4年度末) 1813戸  R4.3 (R3年度末) 1778戸  R3.3 (R2年度末) 1786戸  推移の主な理由としては、普及拡大における接続可能区域の増加。（公共下水道の管渠工事等により、下水道が使える家屋が増えた）</p> <p>Q議：補正予算特別委員会では、2人目の副市長の人事費を削除する修正案が、一旦可決したのに、本会議では修正案が否決されて、原案が可決した。木津川市は、委員会主義のはずだ。本会議で委員会の議決が覆るのでは委員会で議論するのは無駄ではないか。全員で予算決算の議論をすべきではないか。  A：木津川市は、委員会主義をとっている。委員会では時間の制限もなく議論を尽くしている。それでも最終的には本会議での議決が最終結論であるのは致し方ない。</p> <p>Q行：多額の予算を伴う副市長2人目の人事は納得がいかない。木津川市は府下でも1万人当たりの職員数が最低レベルだ。副市長ではなく、職員を増やすべきではないか。これから高齢者が増加するのだから消</p>	

	<p>防職員を増やすなどに予算を使うべきではないか。</p> <p>A : 京都市を除いた京都府下 14 市の中で副市長を二人置くことが可能になっているのは 11 市。そのうち実際に 2 人体制にしているのは 7 市である。木津川市には定員適正化計画があり、計画性をもって職員の適正化をはかっている。</p> <p>Q 行 : J R 奈良線の複線化の進捗状況はどうなっているのか。木津川市エリアの複線化はどうなっているのか。</p> <p>A : 令和 5 年 3 月 18 日に第 2 期事業（平成 25 年～令和 6 年）が開業している。京都駅から城陽駅までの間と、山城多賀駅から玉水駅の間が複線化となり、京都駅から木津駅までの間の複線化率は約 64% となっている。残る単線区間は、城陽駅から山城多賀駅の間と、玉水駅から木津駅の間となる。木津川市内は、第 3 期工事で複線化を目指す。</p> <p>Q 行 : J R 奈良線複線化事業負担金 3 億 6140 万円の算定根拠は。</p> <p>A : J R 奈良線複線化促進協議会（京都市、宇治市、城陽市、木津川市、奈良市、宇治田原町、井手町の 5 市 2 町により構成）の中で木津川市の負担割合が 4.3% となっている。これに基づいて支出している。</p> <p>Q 行 : J R 奈良線複線化事業は、多額の費用負担が予想される。人口減少、少子高齢化の現在、本当に必要な事業なのか。山城町には天井川も複数ある。</p> <p>A : 促進協議会には副知事や府議会議員、国会議員も勢ぞろいしていた。京都と奈良間を結ぶ重要な路線である。天井川は確かに課題だが、完成を目指している。</p>
主な質疑 ・意見等	
質問・要望等 で行政側へ報告すべき内容	
その他の 特記事項	玉川議員は欠席。

上記のとおり、報告します。

令和5年12月7日

木津川市議会議長 長岡 一夫 様

令和5年度第2回議会報告会

第1班 代表者 長岡 一夫